

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人
村松 義人

様

あて名

〒 105-0014
東京都港区芝三丁目2番7号
芝NKビル4階

PCT

国際調査機関の見解書
（法施行規則第40条の2）
〔PCT規則43の2.1〕発送日
（日.月.年）

13. 7. 2004

出願人又は代理人
の書類記号 PW040040-PCT

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号
PCT/JP2004/008295国際出願日
（日.月.年） 08. 06. 2004優先日
（日.月.年） 13. 06. 2003国際特許分類（IPC）
Int. Cl⁷ A63B23/00出願人（氏名又は名称）
株式会社サトウスポーツブラザ

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

24. 06. 2004

名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/JP）
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号特許庁審査官（権限のある職員）
山崎 仁之

2N 3015

電話番号 03-3581-1101 内線 3277

様式PCT/ISA/237（表紙）（2004年1月）

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-5	有 無
	請求の範囲	
進歩性 (IS)	請求の範囲	有 無
	請求の範囲 1-5	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-5	有 無
	請求の範囲	

2. 文献及び説明

文献1: JP 10-085361 A (佐藤 義昭) 1998.04.07
文献2: 日本国実用新案登録出願61-136328号(日本国実用新案登録出願公開63-043501号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (立石電機株式会社) 1988.03.23
文献3: EP 247715 A1 (HATTORI SEIKO CO. LTD) 1987.04.08

文献1には、その内部にチューブが設けられた中空の緊締帯と、このを所望の径のループ形状に維持するための固定手段と、を有し、前記緊締帯を四肢の所定の締め付け部位の筋肉に対して巻きつけて、所望の径となるように前記緊締帯を前記固定手段により固定した状態で、前記チューブに空気を入れることによって所定の加圧力を前記緊締帯を巻き付けた前記四肢に与えることで血流を阻害することにより、前記四肢の筋肉を増強するために用いられる筋肉増強器具であって、前記緊締帯は、その内部に、前記チューブに空気を入れた場合における前記チューブの膨張方向を、前記緊締帯を筋肉に巻き付けた場合の筋肉に面している側に規制するための規制板を有している筋肉増強器具が記載されている。

請求項1に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1及び2とにより進歩性を有しない。文献2により示された肉厚芯体を、文献1の規制板として用いることは、当業者にとって容易である。

請求項2-5に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-3により進歩性を有しない。文献3により示された、バンドの形状を、文献1の規制板の形状として採用することは、当業者にとって容易である。